

平成22年度第2回魅力ある農業・農山村づくり検討委員会 議事録

1 日 時 平成23年2月7日（月）10時30分～11時30分

2 場 所 越谷市農業技術センター会議室

3 出席者

(1) 委員

村上和夫、滝島雅子、藤原梯子、吉田文枝、深田賢、輪島まり子、村岡隆光

(2) 県

高山次郎（農林部副部長）、山永高男（農地活用推進課長）、前田敏之（春日部農林振興センター所長）

（農地活用推進課）稲場主幹、小林（孝）主査、小林（雅）主査、吉沢主任

（農村整備課）牧主幹

（春日部農林振興センター）矢島担当課長

4 主 催 埼玉県

5 傍聴者 なし

6 概 要

(1) 開 会 司会：山永課長

(2) あいさつ

ア 高山副部長

イ 村上委員（会長）

(3) 議 題

○ 魅力ある農業・農山村づくり検討委員会設置要綱4の(3)に基づき、村上会長が議長に就任した。

ア 経営構造対策事業の評価予定地区について 説明：小林（孝）主査

・議 長 この件について本日は状況説明のみとする。次回の委員会において改めて意見を伺う予定である。事務局の説明に対して質問があればいただきたい。

・委 員 担い手への農地利用集積目標の達成状況が思わしくないとのことであるが、担い手農家等に対する遊休農地の情報提供やアンケート調査など、今後とも目標達成に向けた是正策を講じていただきたい。

・委 員 農家の方々に現在の遊休農地を利用して経営面積を広げなさいといってもなかなか難しい。しかし一方では企業と農家の連携が進んでいる。そのような事例はあるか。また、その際地元農家と間にあつれきは生じないか。

- ・山永課長 当課では遊休農地の有効利用のため、企業の農業参入を進めている。委員のおっしゃるとおり、参入企業と地元農家との競合が問題になることがあるので、まず地元の担い手農家さんに遊休農地の利用について意向を聞いた上で、誰もいなければ企業に入っていただくという手法をとっている。当課が調整した企業参入については現在までに8社である。
- ・高山副部長 企業参入プログラムというものがあるが、埼玉の場合はまず地元で何とかするというのを基本にしている。これは越谷市でも同様。企業参入はひとつの選択肢である。

イ 中山間地域ふるさと事業の評価及び事業計画の策定について 説明：吉沢主任

- ・議長 これまでの5年間の事業実績と今後5年間の事業計画について御意見をいただきたい。
地域活動支援の目標が達成できなかったので新たに大学との連携を図った結果、大きな成果があったということによいか。
- ・高山副部長 これまでの企業コンサルタントが活性化に役立たなかったという話ではないが、ふるさと支援隊の学生たちが集落に入ることによって集落の方々の結束が深まったということを目の当たりにした。集落の方々に「こうした方がいいよ」と教えることよりも、そこにある力を上手に引き出すことの方が良いのではないかと感じた。例えば秩父市の太田部楯尾ではいろいろな人がその地域を愛する広がりを見せている。仕掛けてうまくいかないようなことが上手に自発的に広がっている。個人的にはこれからはこういう手法が好ましいのではないかと感じている。
- ・委員 こういう取組の周知を徹底していただきたい。役所のパンフレットスタンドだけではなく、例えば直売所とか一般の人が見えるところにやってほしい。せっかく良い取組で成果も上がっているのにもったいない。もっと積極的に宣伝活動をして欲しい。
- ・委員 大学に勤めているという立場からひと言申し上げると、大学との連携というのはパワーがあるという反面、たとえば製造物責任とかコンプライアンスとかのリスクが伴う。ひとたび事件が起こると強烈なマイナスのイメージが残ってしまう。この辺をきちんとやれば盛り上がりがあるがそのままよい成果になるはず。

- ・議 長 他に意見もないようなのでまとめる。当委員会の意見として「中山間地域ふるさと事業については、過疎化、高齢化が進行している中山間地域の活性化にとって有意義な事業と考えることができる。今後はこれまでの実施結果を十分に検証しながら、中山間地域のニーズを的確に捉え、より高い事業効果が発揮されるようにすること。」としたいと思うかいかがか。

(全員賛成)

(4) 閉 会